

1. 開会挨拶

片田 敏孝 (群馬大学大学院 教授)

皆さん、こんにちは。暑い中、多くの方、遠路はるばるお越し頂きましてありがとうございます。今回は、参加される皆さんの交通の便を考えて、東京で開催させていただきます。

防災教育推進連絡協議会も第4回目になりましたので、もう顔見知りどうしですので、あまりフォーマルな形では進めようとは思っておりません。ざっくりばらんな議論ができればいいなと思っておりますので、どうか忌憚りの無い意見をたくさん出して頂ければと思います。

このプロジェクトは、文科省の補助を受けて、5年計画で動き初めて、3年目になります。それぞれ一生懸命やっけて頂いている先生方、地域の方々にお集りを頂き、防災教育どう進めたらいいのかを議論してきました。時に大きな災害がある。もしかしたら、近い将来、大きな事があるんじゃないかと言われている中で、その日その時、しっかり対応できるような子どもたちに育みたいと、こう願っている者ばかりです。

これまでずっと暗中模索でした。いつの日かその日を迎えるわけですが、我々はしっかり逃げられるように、子どもたちを育むことができるのか。こう暗中模索の中で、それぞれ頑張ってきただろうと思えます。ただ、そういった悩みを共有し、そして「こんな事をやったら、こんな効果がありそうだ」ということを、これまでいろんな地域でいろんな形で議論をしてきました。

どうでしょう。何となくおぼろげだけど、つかみつつあるんじゃないかなという気がします。この協議会を始める前と今現在で防災教育に対するイメージは大きく違うんじゃないでしょうか。避難訓練をマニュアル通り繰り返し、子どもたちに「あれも教えなきゃいけない」、「これも教えなきゃいけない」と、そんなことばかりで頭がいっぱいになっていたところから、「それも大事なんだけども、それだけじ



片田 敏孝 (群馬大学大学院 教授)

ゃないぞ」と何となくの気付きが出てきているのではないのでしょうか。防災教育によって、何とか子どもたちの生き抜く力を育みたい。そして、それだけではなく、「防災教育を学んだからこそ、こんな子どもたちに育まれた」という単なる『逃げろ逃げろ教育』ではない何かをつかみたい。そのような思いのなかで、それができそうだという実感を、皆さんも感じつつあるんじゃないかと思っていますところでは。

また、ここに参加していただいている先生方と私たち群馬大学とのお付き合いだけでなく、それぞれの地域が交流を持ち始め、そして情報交換し、学びあうような関係ができました。これまで大学を中心に動いていた中、でこういう動きがでてきたということに対して本当に嬉しく思っております。今後も私たちを中心とした協議会での集まりだけでなく、そのような動きが活発になっていくことを切に願っているわけです。

そこで、今回の協議会で、これまでの成果と今後の方向性を皆で見出したうえで、一度中締めをしようと思えます。この先の方向を皆さんで考えて頂きたいというそんな思いもあります。

といいますのは、正直、これまでの体制で続けるのは厳しいという思いもあります。これだけ多くの皆さんを集めて開催するための事務手続きを、一地方大学の一研究室で対応することに限界もみえてきました。それであっても、何とか続けたいという思いもあって、実はいろいろ模索しております。まだ正式には申し上げることはできませんが、いずれご報告もできるだろうとは思っております。



これまでは、何とか皆さんに示唆的なことを話すことができたかもしれませんが、これ以上あまり話すことはありません。これから、皆さんと一緒に悩みながら、一緒に前に進んでいきたいと思っています。同等な立場で、同じ悩みを持ち、同じ方向を向いて前に進みたいと思っている者どうしが、情報交換できるような場を作り上げようと思っております。なので、どうか片田に依存せぬ、積極的に情報を交換しあい、学びあい前へ進んでいって頂きたいなと思っております。

前々から言っているように、防災教育を「単に防災の知識を与えて、子どもたちに学習してもらおう」という姿勢から、「自分の力で自分の状況の判断をして、自分の持ちうる限りの知識を使って自分で主体的に動いていけるような子どもたちを育む」という姿勢に変えることで、副次的な効果がいろいろ出てきます。

今日も発表して頂けると思いますが、子どもたちの学力にもそれ相応の効果も出てきています。それから、子どもたちが単に逃げるということだけではなくて、地域の一員としての役割を果たそうとしてきている。そして、学校の子どもの防災教育なんだけども、ちゃんと生き抜く力を持った子どもたちを育むという、学校を育みの環境と捉えると学校だけの話じゃなくなってくる。それで地域を巻き込むと、地域の皆さんも協力してくれる。そして子どもたちの前で襟を正すというのか、地域の側にもいい影響がでてくる。防災教育を中心としてそんな連動性も出てきています。もちろん子どもたちの生き

抜く力を育むことが一番の目的だけど、そこから派生して、子どもたちの学び取る力、学ぼうとする意欲、そして自己肯定感、そういったものをどんどん自信に繋げていき、いろんな効果が出てくるようになる。そして、そこに協力をしてくれて、そんな子どもたちを目を細めて見てくれる地域になっていく。このような中で、学校の地域の中での位置付けそのものが変わりつつあるような実感を何となく持ち始めてきている。そんな嬉しい状況にあると思っています。

とりあえず文科省のプロジェクトとしては中締めしますけども、この会は大事にしていきたいと思っています。そして、どういう形になるにせよ、関わりを持ちながら、皆さんと共に情報交換をし、学びあっていきたいと思えます。そして「防災教育」という言葉はもうあまり使いたくないですね。その枠にとらわれてないので。我々の中で学びあったものが、この子どもたちに何かこう形になっていき、5年後、10年後の子どもたちを見たときに、「あれが、我々が防災教育を介して育んだ子どもたちだ」と鼻高々でいられるような、そんな教育に繋がってほしいなと思っています。

今日は限られたメンバーですので、ざっくばらんに議論しあえれば良いなと思っております。今から6時間半程、場を共有いたしますので、どうか楽しくこのひと時を過ごして頂ければと思っています。